

冷凍食品技術研究

(Frozen Foods Technical Research)

NO.26

1993年12月
発行

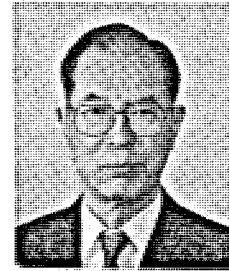
10周年記念号

目次

	頁
冷凍食品技術研究会10周年に寄せて	1
社団法人 日本冷凍食品協会	
専務理事 山田嘉治	1
財団法人 日本冷凍食品検査協会	
理事長 熊谷義光	2
味の素冷凍食品株式会社	
社長 藤木正一	3
日本水産株式会社 品質管理グループ	
ゼネラルマネージャー 有馬和幸	4
株式会社 ニチレイ	
取締役北米事業担当 遠藤英則	5
有限会社 小杉食品技術事業所	
代表取締役 小杉直輝	6
雪印乳業株式会社	
理事 冷凍食品生産部長 鍋田幸蔵	7
冷凍食品技術研究会10年史年鑑	8
規 約	30
役員及び委員名簿	31
会員名簿	32

冷凍食品技術研究会

冷凍食品技術研究会10周年に寄せて



(社) 日本冷凍食品協会
専務理事 山田 嘉治

冷凍食品技術研究会がはや10周年を迎えられると聞き感慨深いものがあります。

冷凍食品はこの10年間に生産量で60万トン台から昨年の120万トンへと、約倍増するという輝かしい実績を記録致しました。

昨今、我国は戦後嘗てない深刻且つ長期の不況下に呻吟しておりますが、その中で殆んどひとり冷凍食品だけが伸び続けているのは何故だろうという質問をよく受けます。

私は、これに対して、冷凍食品は種類も多様で間口が広く、従って需要の変化に対応する適応性があるとか、不況下で人々は華美を敬遠し、実質的なものを求める傾向があり、冷凍食品はその実質性が認識、評価されている等と申しておりますが、実はそれより何より、近年——この約10年間に——冷凍食品の品質と味が格段に向上したことが大きいと考えております。

これは申す迄もなく、製造、包装、流通、調理加工に至る冷食関連技術の目覚ましい進歩に裏付けられてのものであります。先日もある業界関係の方が、多くの既成食品が技術的に殆んど完成の域に達して余り変化がないのに対して、冷凍食品は、技術的に未だに進歩発展の可能性の大きい数少ない業種ですと申しておられまし

たが、誠に同感であります。

この10年間に、冷凍のピラフ、おにぎりや、うどん等の冷凍めんを始めとする各種の商品がその品質を飛躍的に向上させ、消費者の目を引きつけ、これが冷食発展の原動力となったことは疑いのない所であります。

加えて、最初は若干のつまづきを見ましたが、電子レンジ対応の冷凍食品が遂に大成功を収めましたように、製造、包装、調理が一体となった技術革新により、冷凍食品は(優れた保存食品であるだけでなく)最も簡便で現代的な食品だという評価を得るに至りました。

このような技術の進歩は、業界内の激しい競争の中で、時代の需要に即応し或いは需要を創造するような製品の開発に、各社がしのぎを削られたことにもよるかと思えます。

しかるに、このような競争下にある冷食業界の先導的技術陣の方々が、技術研究会の旗の下に結集し、互いに研鑽につとめ、冷食関連技術の進歩向上に協力されていることは、何とも素晴らしく喜ばしいことでもあります。

10周年を迎え今後も冷凍食品業界発展のため、研究会の更なる御活躍を祈る次第であります。

(財) 日本冷凍食品検査協会
理事長 熊谷 義光

冷凍食品技術研究会の10周年記念にあたり、心からお慶びを申し上げます。

今年は私にとって、神戸在勤中の47年に設立した関西の冷凍食品技術研究会が21周年を迎え、いま、また、東京勤務となった58年に関東の冷食工場のご賛同を頂いて設立した「冷凍食品技術研究会(関東)」が、10周年を迎えることとなりました。歴代の会長を初め役員各位のご尽力と、会員の皆さんのご協力のお蔭で、研究会も益々充実し、冷凍食品の製造・管理技術の向上を通じて、企業や業界の発展に微力ながらも貢献しておりますことは、この上もない喜びであります。

顧りみて、この10年間は内外とも激動の時代でありましたが、冷凍食品産業は30年代の導入期から40年代の高度成長期を経て50年代から安定成長期に入り、冷凍食品の生産高は数量・金額とも安定した伸びを示しております。また、最近の長びく景気低迷にも拘わらず、冷凍食品の生産・消費は引続き堅調で、昨年は120万3千トン、前年比8.7%増と伸長しており、とくに家庭用が14.8%と近年にない高い伸びを示しております。

これは、①冷凍食品の加工調理技術、とくに最近、急速に進歩した冷凍技術によって製品の食感・食味(おいしさ)が向上し、冷凍めんや冷凍米飯等の新しい需要が開拓されたこと、②解凍調理による品質変化や調理の煩わしさを予め商品設計や製造工程で吸収し、「電子レンジ」や「オーブントースター」等、新しい調理器具の普及に伴って各種の電子レンジ用製品や煩わ

しいフライの手間を省きオーブントースターで加熱するだけでフライ食品が食べられる「油煤済み製品」、凍ったまま袋ごと熱湯中でボイルして食べられる「ボイル・イン・バッグ製品」等が開発され、解凍調理の簡便性が一段と向上したこと、また③食生活の多様化ニーズに対応した豊富な商品群、④最近の景気低迷で価格と品質のバランスから実質的な価値が評価される時代に入り、所謂「値頃感」のある商品として冷凍食品が認識されてきたこと等がその要因として挙げられるが、こうしたニーズにマッチした製品供給を可能にした冷食工場の開発・生産技術は高く評価されるところであります。

冷凍食品技術研究会では、こうした対応技術を向上するため、例えば製品の多様化ニーズに対応した「多品種少量生産技術」や、生産コスト低減のための「生産(工程)管理技術」「現場の作業改善技術」、また、品質管理の推進のための「小集団活動の進め方」更には最近の売れ筋商品である「冷凍米飯・めん」の製造技術、「電子レンジ製品、油煤済み製品、ボイル・イン・バッグ製品の開発技術」等の諸問題について、シンポジウムや講演会を開催するとともに、機関誌「冷凍食品技術研究」(季刊)を発行し、最近の技術情報を提供するほか、工場見学等を行ってきております。冷食工場にとって企業発展の基盤は「技術力」であり、会員共通の課題である冷凍食品の製造・管理技術の向上に向けて、これからも皆さんの技術研究会として一層のご発展を祈念してご挨拶といたします。



味の素冷凍食品株式会社
社長 藤木 正一

従来は、製品そのものを作る人や機器・設備を、心に着眼して、作業改善、歩留・良品率・品位向上などによる省人化、いわゆる生産性向上をおこなってきましたこの成果は目覚ましいものがあり、冷凍食品が価格安定の優等生であることで実証済みです。またその結果大幅な需要増に繋がってきたと思われま。ところが製品の生産性が向上しても、設備や切り替え段取り、洗浄や殺菌と言った直接生産周辺の生産性の低さが足を引張るようになり、周辺作業の生産性も含めた総合時間効率を改善していくように着眼点が変わってきました。

又、開発、生産、販売のリードタイムが在庫圧縮、ジャストイン化などで短くなり対応の即応性、柔軟性を要求されるようになり、この対応技術も重要な管理技術になってきました。

海外生産も現地の原料の品質・価格や人件費の差が、円高もあり増幅してきたこと、インフラが少しづつ整備されてきたこともあり増加してきております。安全・衛生や生産に対する考え方や常識の違いを越えて、それぞれが独特な管理技術をつくりつつありますが、技術移転のノウハウなど会員相互に参考になるところが大いにあると思います。

以上触れてきたように、世の中の変化に対応して生産の在り方、品質考え方もどんどん変わり、この変化が又、原動力となって冷凍食品の価値と必然性を高めるように結果してきたわけですから、変化こそチャンス、変化がなければ冷凍食品の発展はないと考えても良いと思います。今、冷凍食品の歴史の中で何回目かの大きな変化の時期に差し掛かっています。個々で従来の延長上で改善を続けるか、未来着想で革新に取り組むかで数年後に大きな差がでてくると思います。

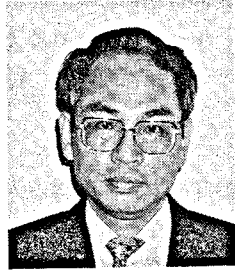
当研究会も、このような観点から会員相互に大いに論議し、活用し合って、来るべき21世紀リードする会に成長することを願っています。

冷凍食品技術研究会は、日本冷凍食品検査協会の熊谷現理事長のご尽力で発足してから、事務局や多くの方々のご努力により、ここに10周年を迎えることができ誠に同慶にたえません。

この間、会員所属の各社が独自に手探りで取り組んでいた生産技術、品管技術、原材料ノーハウなどについて、工場見学・セミナー・会誌などいろいろな機会を通じて、体験を紹介し合い、お互いのレベルの向上をはかることができましたことは大きな成果であります。特に、内容の充実度の高い会誌が着実に発行されたことも、研究会が10年間継続してきた原動力になっており、小泉栄一郎氏はじめ編集委員諸氏の熱意と並み並みならぬご苦労のお陰であることを覚え心から感謝致します。

この10年間は、物が豊富になり、食品の多様化が進んで、冷凍食品の価値や必然性が社会に認知された時期ではないかと思えます。品質の概念も、単に安全・衛生的で品位を満たしているだけでは不十分で、個々の生活者、いわゆるユーザーが真に必要なとするズバリのもの、価格から配送まで全てを満足させる・その全体像を品質としてとらえるように大きく変化してきたように思います。従って良い品質とは作る側即ちメーカーが勝手に決めても意味がない時代になった。常にユーザーの満足度を基準に、製品として具現化し提案を繰り返し行っていかなければ、物は売れない時代が変わったということではないでしょうか。従って技術の概念も、従来の生産技術・品質技術からマーケティング技術という概念と領域へ拡がり、これらが相乗した新しい技術へと進化しつつあり、これから益々この領域を重要な技術分野として強化していくことが課題となるでしょう。

生産技術も大きな変化と進歩をしてきました。



日本水産株式会社
品質管理グループ
ゼネラルマネージャー 有馬 和 幸

冷凍食品技術研究会の10周年記念に当たり衷心よりお喜び申し上げます。当会の発足に当たって御尽力戴きました日本冷凍食品検査協会理事長熊谷さんをはじめ村上常務理事、原田部長、鈴木さんに感謝致します。また関連する業界の先生方のご支援、会員諸兄の努力によってここまで来たと考えます。私も当会発足当初より参画できましたことを心から喜んでおります。

私は藤木さんの後を仰せつかり昭和59~60年の2年間2代目の代表理事を勤めさせていただきました。このときの大きな思い出になっているのは、会報「冷凍食品技術研究」を発刊できたことでもあります。

折角の機会でありますので、発刊に当たっての経緯を簡単に触れさせていただきますと、別組織（水産食品衛生協議会）の幹事会後の懇親会でしばしばいろいろの問題についてディスカッションをしていましたが、当会のお話になり会員間の情報の場としての会報を発行したらどうかと意見がまとまり、理事会に諮り了承されたものです。以来小泉さんを中心とした編集部員の方々の努力で発行が続いております。大変ご苦労さまでありますが、今後ともすばらしい会報を発刊できることを祈念致します。

ところで現在の世の中は、バブルの崩壊、急激な円高、冷夏での消費の停滞による販売不振や農産物の凶作、政治不信や経済不振などにより不況が長引き良い話は少なく、不況に強いといわれる食品業界もこの度は大きな打撃を受けており、早く景気が回復し明るい話が増えることを待ち望まれます。美味しいものを生活者が納得される適正価格で市場にだす努力をしてい

れば必ず顧客はついてきてくれると考えます。市場に美味しいものを出す技術は日本人が得意とするものと考えます。

最近、鹿児島県（かこいの原遺跡）で12,000年前の土器が発見されたというニュースがありました。今までに長崎県東松浦（福井洞穴）で同じく12,000年前の土器が発見されており、この度鹿児島県から多量（約1,000個）の12,000年前の土器が出土したことによって日本の縄文時代がいに早くからはじまり、長い歴史を持つかを再認識させられました。

この縄文時代の長い歴史が日本の食文化を醸し出す元になったと考えます。土器の発明により煮る、揚げる、蒸す、煎る、焼くなど調理の種類が大きく広がりを持ったと思います。この縄文時代が1万年近くも続いたとすれば、そこに食の文化が起これないはずはない。梅原猛氏によると、縄文文化は森と自然を愛し、生活が豊かな素晴らしい文化であったといえます。

日本の食の文化は室町時代の中ごろを中心に花開いたと聞きます。寿司飯、炊きあげご飯、近代的な酒、味噌、醤油、豆腐、てんぷら、重石（寝かす）の味、大鍋の味など例をあげると切りがないようです。うま味、だしの文化、配色、盛りつけの文化など、日本人の根元的な文化が次第に明確になってくることを期待しています。新商品開発のヒントがあるように感じます。

ところで食品業界もPL、期限表示、国際規格化などにより新しい考えでの工場経営が必要になると考えます。ますます冷凍食品技術研究会が発展することを祈念します。

冷凍食品技術研究会発足10周年を迎えられました事、心よりお慶び申し上げます。

冷凍食品業界発展のため、各社互いに競合しながらも、技術研鑽のために協力し合うということは素晴らしい事であります。

発足当時ご尽力された検査協会の熊谷さん、村上さん、原田さん、鈴木さん、そして業界では藤木さん、有馬さん、小泉さんをはじめ皆様に対しまして深く敬意を表します。

冷食業界も年々着実に伸長し食品業界に確固たる地位を築きつゝある事も大変嬉しい事です。さて、私事ではありますが昨年四月より北米事業担当を命じられ、現在シアトルを中心に業務を展開しております。

当社の北米事業はシアトル本社であるNFI（ニチレイ・フーズ・アメリカ）の他5つの事業所を持っております。ロスのTNG（ビーフジャーキー生産販売）、メリーランドのSWI（サーフクラムという二枚貝の加工販売）、ネブラスカのSHF（牛肉の軽加工販売）、シアトルのANF（カニカマ、冷凍食品の生産工場）、シアトルのNFA（各種食品販売会社）であります。取扱いは約3億億円、従業員は約千名、利益は(-)です。

昨今日本のバブル崩壊と共に、日本各社の北米事業撤退又は縮少が紙面に報じられていますが、当社は有能な人材の確保、必要な設備、漁業権、営業権等への投資を行い、現地完結型の経営を目指し邁進しております。

1995年には黒字化すると確信して、日米のスタッフと問題解決に取り組んでいます。

ところで、当地は風光明媚、人は親切、通勤は楽、気候は東京とほぼ同じ、ゴルフのプレー代は日本の1/8、など良い所が沢山ありますが、

株式会社ニチレイ
北米事業担当
取締役 遠藤 英 則

夜と言葉と〇は絶対日本です。

年に4回程、仕事の関係で日本へ帰りますが、仕事以外の日程が詰まり、家族との時間も余り取れず（家族は日本）シアトルに帰る時にはクタクタの状態です。

ところで日本の米の問題ですが、まず第一に感じる事は、消費者が1年位米が2、3割不足したからといってそう騒ぐことはないだろうという事です。戦中戦後のように他に食べる物が無いなら別だが何でも沢山あるのですから。まるで駄々っ子のようなだし、卑しくも感じられます。私以上の年配の人からよく云い聴かせて下さい。但し日本酒に使う米は優先的に都合つける事は賛成です(?)。

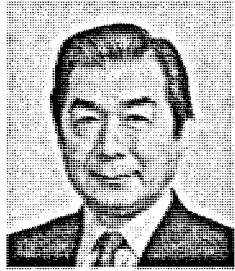
次に米の自由化も含め、内外価格差是正の問題は、歴史の流れとして当然生じる事であり、これにいつまでも逆ってはかえって深傷を負うことになるのは明らかです。しかし例えば、稲作とか森林とか干潟とかが環境保善のために役立つというなら、皆がそれなりの負担はすべきでしょう。

とりとめのない事を書いてしまいましたが、現在日本の経済は大変落ち込んでいますが心理的要素も大きく影響しているように思えます。

六中観の中に「苦中楽有り」「死中活有り」「壺中天有り」というのがあります。

どうぞ冷凍食品技術研究会の皆さんには明るく自信を持って活躍していただき度く、お願い申し上げます。

末筆ではありますが、鍋田会長はじめ会員皆様とご家族様のご健勝、及び冷凍食品技術研究会、各社様益々のご発展をシアトルよりお祈り申し上げます。



(南) 小杉食品技術事務所
代表取締役 小杉直輝

10周年を迎えられた事を心からお喜び申し上げます。

この冷凍食品技術研究会発足時、私は味の素本社の冷凍食品事業部に勤務しておりました。

関西から東京本部に戻られた現熊谷理事長の「関西で行っている冷凍食品の技術研究会に相当するものを関東でも作ろう」との呼びかけで準備に係わったのが最初です。

この10年間は私にとって変化の激しい時期でした。東京本社勤務から群馬県の味の素冷凍食品(株)冷凍食品開発研究所・所長を6年間の勤め、その後また東京に戻り、平成3年6月に味の素を退社し、食品コンサルタントとして独立しました。

私はこの研究会の発足当初から理事として、又昭和64年より3年間、第4代の研究会の代表理事として皆様方と一緒に活動させて頂きました。

冷凍食品技術研究会は冷凍食品の製造に係わっている会社を中心に会員を構成しています。そのため本来なら味の素(株)を退職した時にその資格を失うところを、皆様方のご推薦により、名誉会員として当研究会に残れ感謝している次第です。

独立してからは会社勤めの時よりもより一層広い知識が要求され、冷凍食品技術誌がおおいに役立っています。

これからも技術情報をどしどし取り上げて連載して頂きたいと願っています。

当研究会での一番の思い出は、研究会主催の台湾考察旅行でした。

この計画は発足当初からありましたが、予算

を計上していながらいつも先送りになっていました。

海外視察旅行を実行するにはそれなりに苦勞がありましたが、台湾の冷凍食品発展協会、農業委員会の協力を得て5泊6日の有意義な楽しい考察旅行が出来たのも懐かしい思い出です。

この旅行ではニチロの鈴木順晴さんと協会の原田次長の多大なご協力がありました。

研究会は他の団体と異なり技術屋の集団であり、外交辞令が少なく本音で話し合っている事が多いのではないのでしょうか。

工場見学も味の素冷凍食品群馬工場と雪印食品群馬工場、ニチレイ船橋工場、アンゼンフーズ沼津工場など冷凍食品の同業者を工場に案内したのは画期的な事と思われまます。

最近気付いた事ですが、この2、3年冷凍食品の技術シンポジウムが中断しているのではないかと思います。

このシンポジウムは、以前日本冷凍協会と共催の形で実施されていたのですが、研究会独自の企画として最新の食品関連の技術話題、冷凍食品の生産技術などをテーマとしてぜひ開催を続けて欲しいと願っています。

20年余りを冷凍食品の技術に携わってきたので、世間からは冷凍食品関係の専門家としてみられているようです。これからも冷凍食品とは縁が切れないでしょう。

今後もこの冷凍食品技術研究会(関東)が冷凍食品業界の技術の向上に役立つ活発な活動をされる事を期待すると共に、今後の益々の御発展をお祈りいたします。



雪印乳業株式会社 生産本部
理事 冷凍食品生産部長 鍋田幸蔵

関東での冷凍食品技術研究会が発足して区切りの10周年を迎えましたが、只今その会長の任に当たらせて頂いております小職より、一言ご挨拶申し上げます。

現代の食品市場は、量的拡大から質的拡大へ多品種少量消費による豊から食生活の指向、食品(原料、製品)の大幅な輸入拡大や海外体験による味覚・食文化の拡大、本物指向、品質向上・保持や商品サービスの顧客要求体によりやさしい、食への健康指向など、言わば、食品市場に順応できる冷凍食品の位置づけが、一般に、美味しく、安全、便利でしかも値頃感もほどほどである商品ジャンルとして市場でも再認識されて来ていることは、誠に喜ばしい限りであります。

この陰には、行政官庁、研究機関を始めとして、(財)日本冷凍食品検査協会、(社)日本冷凍食品協会様からの絶大なるご指導の基での、各社の懸命なご努力で、家庭調理と殆んど差のない美味しい商品を市場に提供させて頂いている現状でもあります。

21世紀に向けて、冷凍食品市場も1兆円の売上も夢ではないトレンドにありますし、成熟した食品市場に向けての活性化開発も期待される

趨勢にあります。冷凍食品製造技術に関わる進歩発展も私共メーカーの力を結集して実現させていかなければならないとも思っております。

技術研究会も既に発刊された25号に見るような、技術情報、各種講習会やシンポジウムの開催、内外生産工場視察を通しての技術力アップに努めておりますことは周知の事実ではありますが、今後の避けては通れない賞味期限表示や、社会環境によりやさしい商品づくり、PL(製造物責任)・CS(顧客満足)などを念頭に置いての物づくりサービスに徹するメーカーとしての使命があると存じて居ります。

食品に対する市場の要求が、物からソフトサービス、素材品質へのこだわり、中食市場商品、簡便調理商品、有効微量栄養分添加の健康食品、電解水等特殊な水を上手く利用した商品など、成熟した食品市場への商品提供もトレンドとして考えて行かなければと考える次第ですが、これからも冷凍食品技術研究会を情報源に、我々冷凍食品に携わるメンバーが互いに切磋琢磨し合い、研鑽を重ねて参ろうではありませんか。

年次	冷凍食品技術研究会
1983 (昭58)	<p>5.25 「冷凍食品技術研究会(仮称)の設立について」趣旨賛同者の入会勧告案内</p> <p>6. 8 「冷凍食品技術研究会(仮称)の設立準備委員会」開催、規約(案)の作成(出席者 18名)於 芝大門精養軒</p> <p>6.10 「冷凍食品技術研究会」の入会について規約(案)により入会勧告並びに設立総会案内</p> <p>7. 8 「冷凍食品技術研究会第2回設立準備委員会」開催 事業計画、設立総会計画(出席者 14名)於 芝大門精養軒</p> <p>7.14 「冷凍食品技術研究会設立総会」開催並びに懇親会(出席者 58名)於 東京農林年金会館</p> <p>7.18 「入会金ならびに前期分会費納入願」発送</p> <p>8. 「入会案内」作成</p> <p>8.26 「第一回理事会」開催 58年度事業計画他 於 大洋漁業(株) 会議室</p> <p>10. 7 工場見学会の開催(出席者 58名) 於 味の素冷凍食品(株)関東・雪印乳業(株)群馬冷食工場</p> <p>11.17 「第二回理事会」開催 58年度事業実施計画検討他 於 日本冷凍食品検査協会 会議室</p> <p>11.24 「58年度 後期分会費納入について」案内</p> <p>12.14 「講演会ならびに懇親会」開催</p> <p>1) 冷凍食品の生産管理について 日本冷蔵(株)食品第一部 遠藤生産課長</p> <p>2) ユーザーが望む業務用冷凍食品 全国給食品物資販売協同組合連合会 田井専務理事 (出席者 52名)於 東京郵便貯金会館</p> <p>会 員 数 81社</p> <p>理 事 者</p> <p>日本水産(株) 有馬 和幸 日本冷蔵(株) 遠藤 英則</p> <p>日魯漁業(株) 城戸 康雄 大洋漁業(株) 小泉栄一郎</p> <p>味の素(株) 小杉 直輝 味の素冷凍食品(株) 藤木 正一(代表理事)</p> <p>雪印乳業(株) 新田 勲 (株)フレック関東 久本 武志</p> <p>サンバーグ(株) 井口 喬 明治乳業(株) 東野 和夫</p> <p>日本デルマール食品(株) 田口英樹 (財)日本冷凍食品検査協会 熊谷 義光</p> <p>顧 問 (財)日本冷凍食品検査協会 森沢 基吉</p>

食品業界関連	社会関連の動き
2月 BHA規制措置延期(環食化第5号)	1月 中曽根首相訪韓、40億ドル経済協力を約束
2月 アオブダイの肝による食中毒(三重)	1月 中曽根首相訪米、『日本列島不沈空母化』発言
3月 『洋生菓子の衛生規範』制定(環食第54号)	2月 宇宙開発事業団、日本初の実用通信衛星「さくら2号a」を打ち上げ
6月 5大湖産ワカサギのダイオキシン汚染問題	4月 東京ディズニーランド開園
8月 EDTA、アスパルテーム等11添加物指定(省令第36号、第37号、告示第153号)	8月 フィリピン、アキノ暗殺
8月 食品添加物78品目の物質名表示義務付け(環食化第38号)	9月 大韓航空機、サヘリン沖でソ連軍機に撃墜される
8月 サッカリンナトリウム、塩化カルシウム等14品目の使用基準の改正(告示第148号)	10月 ビルマ・ラングーン爆弾テロ
8月 たらこ成分規格設定(告示第153号)	10月 米軍、グレナダ侵攻
12月 『フグの衛生確保について』通知(環乳第59号)	10月 ロッキード事件で田中元首相に実刑判決
12月 サンサイフグの取扱いについて通知(環乳第60号)	11月 米レーガン大統領来日、市場開放と防衛協力要請
○ フィージーにおける日本産サバ缶詰クルベオトキシン中毒事件	12月 中曽根第2次内閣 発足
	○ 米レーガン大統領、戦略防衛構想(スター・ウォーズ構想)発表
	○ 第17回国際度量衡会議、新しい1メートルの定義を光速を基準に改正
	○ TVドラマ『おしん』ブーム

年次	冷凍食品技術研究会
1984 (昭59)	<p>2.14 「食品冷凍講習会及びシンポジウム(冷凍食品製造上の諸問題)」開催 ～16 (出席者 52名) 於 品川区立勤労福祉会館</p> <p>2.27 「食品冷凍講習会」他テキスト等資料を欠席会員42社に送付</p> <p>4.18 「第一回理事会」開催 定例総会に提出する58年度事業報告、収支決算並びに59年度事業計画、収支予算案等について協議 於 協和銀行芝支店 会議室</p> <p>5.14 「第二回理事会」開催 工場見学、定例総会の打合会を開催した 於 検査協会 会議室</p> <p>6.13 定例総会の開催 栃木県鬼怒川温泉「鬼怒川御苑」(出席者 48名) ～14 記念講演「欧米の冷凍食品事情について」 (社)日本冷凍食品協会 山田専務理事</p> <p>6.13 工場見学会の開催 レオン自動機御宇都宮工場(出席者 56名)</p> <p>10.17 「第三回理事会」開催 59年上半年期会務報告、下半年期事業計画、会則の改訂等について審議 於 協和銀行芝支店 会議室</p> <p>11.26 「第四回理事会」開催 講演会開催計画等について打合せ 於 検査協会 会議室</p> <p>12.13 「講演会ならびに懇親会」開催 1) 販売面より見た冷凍食品の最近の動向 俵委 食 東京冷食支店長 高井哲也 2) 食品の冷凍・解凍の新技術 東海区水研冷凍研究室 田中武夫 (出席者 66名) 於 東京郵便貯金会館</p> <p>会 員 数 82社 理 事 者 日本水産(株) 有馬 和幸(代表理事) 日本冷蔵(株) 遠藤 英則 日魯漁業(株) 城戸 康雄 大洋漁業(株) 小泉栄一郎 味の素(株) 小杉 直輝 味の素冷凍食品(株) 藤木 正一 雪印乳業(株) 新田 毅 (株)フレック関東 久本 武志 サンバーグ(株) 井口 喬 明治乳業(株) 東野 和夫 日本デルマール食品(株) 田口 英樹 (財)日本冷凍食品検査協会 熊谷 義光 顧問 (財)日本冷凍食品検査協会 森沢 基吉</p>

食品業界関連	社会関連の動き
2月 トリクロロエチレン等について暫定的な水質基準値設定	1月 宇宙開発事業団、日本初の実用放送衛星「ゆり2号a」を打ち上げ
3月 『輸入フグ検査指針』を通知(環食第48号、環乳第6号)	2月 サラエボ冬季五輪、開幕
4月 経済企画庁、厚生省等、『健康食品』の販売等に関する総合実態調査を発表	3月 グリコ・森永事件始まる
5月 薬効をうたった『健康食品』に初の行政処分	3月 ソ連、200カイリ経済水域を設定
5月 燻蒸処理米の臭素に暫定基準(環食化第29号)	4月 米レーガン大統領訪中
6月 粉末野菜の放射殺菌に有罪判決	7月 ロサンゼルス五輪 開幕
6月 『辛子蓮根』によるボツリヌスA型菌食中毒	9月 韓国大統領 全斗煥来日
7月 食中毒事故発生防止の徹底について通知(衛食第5号)	10月 インド、ガンジー首相暗殺
10月 厚生省食品保健課に『健康食品対策室』設置	11月 日本プロ野球50年
11月 農水省、『消費者の部屋』開設	11月 米レーガン大統領再選
12月 グリコ森永事件に係る食品の安全確保等について通知(衛食第102号)	12月 電電公社の民営化発足

年次	冷凍食品技術研究会																								
1985 (昭60)	<p>1.29 「第五回理事会」開催 59年度会務中間報告、事業計画推進のため、事業部会、会報部会を設けることとした 於 日本水産</p> <p>2.6 「食品冷凍講習会」開催 ～ 8 (受講者51名) 於 品川区立勤労福祉会館</p> <p>2.8 「シンポジウム」開催 1) 冷凍食品のこれからの生産方式 小杉 直輝(味の素冷凍食品) 2) 冷凍食品の衛生管理 有馬 和幸(日本水産) 3) 水産フライ冷凍食品の品質管理 小泉栄一郎(大洋漁業) 4) 冷凍食品の新製品開発動向 中川 論(雪印乳業) 5) 冷凍新技術(フリーズフロー) 木沢 昇(日本製粉) 総合討論 司会 熊谷 義光(検査協会) (受講者51名) 於 品川区立勤労福祉会館</p> <p>3.26 「部会」開催 技術会報の発行を決め、具体的な打合せを行った</p> <p>5.2 「第一回理事会」開催 会報編集会議にて1号会報の打合わせ 於 検査協会 会議室</p> <p>5.8 「第二回理事会」開催 定例総会に提出する59年度事業報告、収支決算並びに60年度事業計画、収支予算案等について協議 於 検査協会 会議室</p> <p>5.14 定例総会の開催 東京農林年金会館 (出席者44名) 記念講演「最近の食品衛生上の諸問題」 厚生省食品保健課 松井課長補佐 第1号 会報の発行</p> <p>6.26 「事業部会」開催 60年度事業計画の検討 於 検査協会 会議室</p> <p>9.6 「事業・会報部会」開催 2号会報等の打合わせ 於 検査協会 会議室</p> <p>9.30 第2号 会報の発行</p> <p>11.5 「会報部会」開催 3号会報の打合わせ 於 検査協会 会議室</p> <p>12.18 「第三回理事会」開催 業務進行状況の報告と下半期事業計画等について 打合せ 於 検査協会 会議室</p> <p>会 員 数 84社</p> <p>理 事 者</p> <table border="0"> <tr> <td>日本水産㈱</td> <td>有馬 和幸(代表理事)</td> <td>㈱ニチレイ</td> <td>遠藤 英則</td> </tr> <tr> <td>日魯漁業㈱</td> <td>城戸 康雄</td> <td>大洋漁業㈱</td> <td>小泉栄一郎</td> </tr> <tr> <td>味の素㈱</td> <td>小杉 直輝</td> <td>味の素冷凍食品㈱</td> <td>藤木 正一</td> </tr> <tr> <td>雪印乳業㈱</td> <td>笹島 昭彦</td> <td>㈱フレック関東</td> <td>久本 武志</td> </tr> <tr> <td>サンバーグ㈱</td> <td>井口 喬</td> <td>明治乳業㈱</td> <td>望月 正人</td> </tr> <tr> <td>日本デルマール食品㈱</td> <td>田口 英樹</td> <td>(財)日本冷凍食品検査協会</td> <td>熊谷 義光</td> </tr> </table> <p>顧問 (財)日本冷凍食品検査協会 森沢 基吉</p>	日本水産㈱	有馬 和幸(代表理事)	㈱ニチレイ	遠藤 英則	日魯漁業㈱	城戸 康雄	大洋漁業㈱	小泉栄一郎	味の素㈱	小杉 直輝	味の素冷凍食品㈱	藤木 正一	雪印乳業㈱	笹島 昭彦	㈱フレック関東	久本 武志	サンバーグ㈱	井口 喬	明治乳業㈱	望月 正人	日本デルマール食品㈱	田口 英樹	(財)日本冷凍食品検査協会	熊谷 義光
日本水産㈱	有馬 和幸(代表理事)	㈱ニチレイ	遠藤 英則																						
日魯漁業㈱	城戸 康雄	大洋漁業㈱	小泉栄一郎																						
味の素㈱	小杉 直輝	味の素冷凍食品㈱	藤木 正一																						
雪印乳業㈱	笹島 昭彦	㈱フレック関東	久本 武志																						
サンバーグ㈱	井口 喬	明治乳業㈱	望月 正人																						
日本デルマール食品㈱	田口 英樹	(財)日本冷凍食品検査協会	熊谷 義光																						

食品業界関連	社会関連の動き
1月 牛乳の“D+0”処理体制の正常化について通知(衛乳第4号)	3月 つくば科学万博(国際科学技術博覧会)開催
4月 魚網防汚剤中のTBTの魚介類への残留防止通知(衛乳第18号)	3月 ソ連チュルネンコ書記長死去、後任にゴルバチョフ氏
5月 ミネラルウォーター類の衛生基準遵守等、監視指導の強化を通知	4月 NTT、日本タバコ産業発足
6月 瘦身効果等を標榜する『健康食品』の広告取締りについて通知(薬監第38号)	4月 政府、88年4月以降の商業捕鯨撤退を決定
7月 ロングライフ牛乳等の保存基準設定および品質保持期限表示(省令第29号)	6月 大鳴門橋開通
7月 ジエチレングリコール混入ワイン事件	7月 市場開放アクションプログラム決定
12月 食品等輸入の事前届出制導入(省令第12号)	7月 EC関係理事会、製造物責任(PL)制度への移行に関する指令を採択
	8月 日航機ジャンボ123便墜落 ○ ソ連共産党、綱領を修正、ペレストロイカ始まる

年次	冷凍食品技術研究会
1986 (昭61)	<p>1.13 「会報部会」開催 4号会報の打合わせ 於 検査協会 会議室</p> <p>1.30 第3号 会報の発行</p> <p>3.20 「講演会ならびに懇親会」開催</p> <p>1) 最近の冷凍食品の動向と市場活性化対策について (社)日本冷凍食品協会 山田専務理事</p> <p>2) 最近の食品衛生上の諸問題について 厚生省 食品保健課 吉田課長補佐</p> <p>3) 最近の食品加工新技術について (財)食品産業センター 新井技術開発部長</p> <p>4) 食品冷凍の立場から見た氷温冷蔵・チルド・パーソナルフリージングの特質について 国際冷凍協会 正会員 加藤舜郎 (出席者 66名) 於 東京農林年金会館</p> <p>2.6~7 「食品冷凍講習会」開催 品川区立勤労福祉会館 (受講者 45名)</p> <p>2.7 「シンポジウム」開催 品川区立勤労福祉会館 (受講者 71名)</p> <p>1) 新製品開発の進め方 中野勘治(ニチレイ)</p> <p>2) 品質管理の具体的な進め方 近藤 智(雪印乳業)</p> <p>3) 冷凍食品工場の機械装置の動向と課題 小杉直輝(味の素冷凍食品)</p> <p>4) 冷凍食品の多品種・少量生産方式 宗像一郎(ヤヨイ食品)</p> <p>5) 冷凍ハンバーグ等肉製品の製造技術 井口 喬(サンバーグ)</p> <p>6) 水産冷蔵工場の経営と品質管理 宗方重孝(常磐冷蔵)</p> <p>7) これからの冷凍食品の生産管理のあり方 遠藤英則(ニチレイ) 総合討論 司会 熊谷義光(検査協会)</p> <p>6.18 「第一回理事会」開催 定例総会に提出する60年度事業報告、収支決算並びに61年度事業計画、収支予算案等について協議 於 検査協会 会議室</p> <p>7.7 「会報部会」開催 第4号発行について打合せ 於 検査協会 会議室</p> <p>7.11 「第二回理事会」開催 於 ホテル天坊</p> <p>7.11 工場見学会の開催 カネコ種苗㈱</p> <p>7.11 定例総会の開催 群馬県伊香保温泉 ホテル天坊 (出席者 35名)</p> <p>7.17 「事業・会報部会」開催 4号会報の打合わせ 於 検査協会 会議室</p> <p>7. 第4号 会報の発行</p> <p>10.6 「事業・会報部会」開催 5号会報の打合わせ 於 検査協会 会議室</p> <p>10.17 「事業部会」開催 講習会打合わせ 於 検査協会 会議室</p> <p>11. 第5号 会報の発行</p> <p>12.22 「第三回理事会」開催 業務遂行状況検討 於 検査協会 会議室</p> <p>会 員 数 84社</p> <p>理 事 者</p> <p>日本水産㈱ 有馬 和幸 ㈱ニチレイ 遠藤 英則(代表理事)</p> <p>日魯漁業㈱ 鈴木 順晴 大洋漁業㈱ 小泉栄一郎</p> <p>味の素㈱ 小杉 直輝 味の素冷凍食品㈱ 藤木 正一</p> <p>雪印乳業㈱ 笹島 昭彦 ㈱フレック関東 田中 博</p> <p>サンバーグ㈱ 井口 喬 明治乳業㈱ 望月 正人</p> <p>日本デルマール食品㈱ 田口 英樹 (財)日本冷凍食品検査協会 熊谷 義光</p> <p>顧問 (財)日本冷凍食品検査協会 添田 恒</p>

食品業界関連	社会関連の動き
4月 ソ連チェルノブイリ原発事故	2月 フィリピン、マルコス政権崩壊、アキノ大統領就任
4月 厚生省、新微生物規格案(水産物、食肉等)を提示	4月 男女雇用機会均等法施行
5月 ソ連原発事故に係る輸入食品監視指導通知(衛検第132号)	4月 昭和天皇在位60年記念式典
5月 未殺菌、未除菌ミネラルウォーター類の製造基準等 (省令第35号、告示第111号)	4月 ソ連チェルノブイリ原発事故
6月 生鮮野菜等に対する発色、漂白禁止 (衛食第101号、衛化第32号)	5月 東京サミット開催
7月 食肉へのニコチン酸不正使用に関し監視強化を通知(衛乳第32号)	7月 中曽根第3次内閣 発足
8月 日本健康食品協会、健康食品の自主基準を公示 『JHFA』認定マーク発足	8月 新自由クラブ解党
11月 ソ連原発事故に係る食品中の放射能濃度の暫定限度値を通知(衛検第282号)	9月 社会党、土井たか子委員長就任、初の女性党首
11月 厚生省、加工食品の栄養成分表示制度実施(JSDマーク)	11月 伊豆三原山、209年ぶりに大噴火
11月 『第5版食品添加物公定書』公表	
11月 低酸性飲料のポツリヌス対策として殺菌に係る製造基準改正(告示第213号)	

年次	冷凍食品技術研究会
1987 (昭62)	<p>1.21 「事業・会報部会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>2.4~6 「食品冷凍講習会」開催 品川区立勤労福祉会館(受講者 60名)</p> <p>2.6 「シンポジウム」開催 品川区立勤労福祉会館(受講者 70名)</p> <p>1) 冷凍食品工場のこれからの品質管理 笹島明彦(雪印乳業)</p> <p>2) 冷凍ハンバーグの品質管理 榎森正浩(日東食品製造)</p> <p>3) 冷凍食品工場における異物管理 天津 進(ニチレイ船橋)</p> <p>4) 冷凍フィッシュステックの品質管理 田口英樹(デルマール食品)</p> <p>5) 冷凍ピザパイの品質管理 田端宏治(ジェシーフーズ)</p> <p> フーR手法について</p> <p>6) 新製品開発(電子レンジ用食品) 尾崎隆三(トータク)</p> <p>7) チルド食品工場の品質管理 島川順二(ミムロ)</p> <p> 総合討論 司会 熊谷義光(検査協会)</p> <p>3.20 「講演会ならびに懇親会」開催</p> <p>1) 輸入食料の現状と動向 (社)日本水産物輸入協会 田辺専務理事</p> <p>2) 輸入野菜(特にポテトについて)の現状と動向 (株)トーマン 四方田食品第二課長</p> <p>3) 輸入水産物の現状と動向 (株)みなと新聞 松能編集局長代</p> <p>4) 輸入食肉の現状と動向 日本食肉缶詰工業協同組合 淵 専務理事 (出席者 47名) 於 東京郵便貯金会館</p> <p>3. 第6号 会報の発行</p> <p>4.9 「第一回理事会」開催 62年度事業計画、収支予算案等について協議 於 検査協会 会議室</p> <p>6.5 工場見学会の開催 (株)東海紀文</p> <p>6.5 「第二回理事会」開催 61年度事業報告、収支決算並びに62年度事業計画、 収支予算案等について協議 於 ホテル サンバレー伊豆長岡</p> <p>6.5 定例総会の開催 静岡県伊豆長岡温泉 ホテル サンバレー伊豆長岡 (出席者 39名)</p> <p>9.12 「事業・会報部会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>10.9 「第三回理事会」開催 業務遂行状況検討 於 検査協会 会議室</p> <p>12.15 「講演会ならびに懇親会」開催</p> <p>1) 食品工場における品質管理にたいする施設設備機械について 味の素冷凍食品(株) 近藤技術部長</p> <p>2) 冷凍食品生産技術の動向 東京水産大学冷凍食品工学科 小嶋教授</p> <p>3) ノルウエーにおける水産業とその規制 ノルウエー水産大学工学研究室 ジョニー・ロイルビク教授 (出席者 50名) 於 東京郵便貯金会館</p> <p>12. 第7号 会報の発行</p> <p>会 員 数 82社</p> <p>理 事 者</p> <p>日本水産(株) 有馬 和幸 (株)ニチレイ 遠藤 英則(代表理事)</p> <p>日魯漁業(株) 鈴木 順晴 大洋漁業(株) 小泉栄一郎</p> <p>味の素(株) 小杉 直輝 味の素冷凍食品(株) 藤木 正一</p> <p>雪印乳業(株) 笹島 昭彦 (株)フレック関東 田中 博</p> <p>サンバレー(株) 齊藤 昭 明治乳業(株) 望月 正人</p> <p>日本デルマール食品(株) 田口 英樹 (財)日本冷凍食品検査協会 熊谷 義光</p> <p>顧問 (財)日本冷凍食品検査協会 添田 恒</p>

食品業界関連	社会関連の動き
1月 『セントラルキッチン/カミサリー・システム』の衛生規範』通知 (衛食第6号の2)	1月 日本航空の完全民営化
3月 カネミ油症事件和解成立	2月 エイズ対策関係閣僚会議、エイズ問題総合対策大綱を決定
5月 EDB燻蒸でパイヤ、サヤインゲンへの残留を認めないと通知 (衛食第79号、衛化第16号)	4月 国鉄分割、民営化。JR誕生
8月 ミネラルウォーター類の加熱以外の殺菌、除菌の確認方法について通知 (衛食第130号)	7月 米上院、包括通商法案可決
8月 豪州産牛肉DDT、ディルドリン、ヘプタクロル等検出	9月 新電電発足
8月 DDT等の残留する輸入食肉の流通防止について通知(環乳第42号)	9月 日タイ修好宣言調印100年
9月 『流通食品への毒物混入防止特別措置法』	9月 日米欧で株価大暴落 (ブラックマンデー)
10月 乳児ボツリヌス症の予防対策について通知(衛食第170号、衛乳第53号)	10月 竹下内閣 発足
12月 輸入食品監視情報オンライン化に伴う業務の実施について通知(衛検第287号)	11月 アンダマン海大韓航空機爆破事件
	12月 先進7カ国蔵相会議(円高承認)
	○ 国連、フロンガスの生産消費を規制する原則に合意、99年までに消費量を半減させる議定書に24カ国が署名

年次	冷凍食品技術研究会
1988 (昭63)	<p>2.3~5 「食品冷凍講習会」開催 品川区立勤労福祉会館 (受講者 48名)</p> <p>2.5 「シンポジウム」開催 品川区立勤労福祉会館 (受講者 80名)</p> <p>1) 加工原料としての食肉について 新村 裕 (日本食肉加工協会)</p> <p>2) 遠赤外線による食品保存 山本 常治 (水産練製品研究会)</p> <p>3) 新技術と新製品 阿部 英夫 (大 龍)</p> <p>4) 我が社の品質管理システム 鈴木 順晴 (日魯漁業)</p> <p>5) 冷凍食品工場の品質管理 尾崎 顕一 (雪印乳業)</p> <p>総合討論 司会 山田 耕二 (ニチレイ)</p> <p>2.10 「会報部会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>2. 第8号 会報の発行</p> <p>3.3 事業部会 中華民国衛生署視察団との会合 於 検査協会 会議室</p> <p>7.8 工場見学会の開催 第一屋製パン(株)宇都宮工場 大洋シーフーズ(株)宇都宮工場</p> <p>7.8 定例総会の開催 栃木県鬼怒川温泉 鬼怒川御苑 (出席者 40名)</p> <p>7.17 「第一回理事会」開催 62年度事業検討、63年度事業予定打合せ 於 検査協会 会議室</p> <p>7. 第9号 会報の発行</p> <p>10.19 「第二回理事会」開催 業務遂行状況検討 於 豊国ビル 会議室</p> <p>10. 第10号 会報の発行</p> <p>12.9 「講演会ならびに懇親会」開催</p> <p>1) 食品工場のFA化について ライフェンジアリング(株) 草間システム第二部長</p> <p>2) 消費者からのメーカーに望むこれからの食品について 主婦連合会 和田副会長</p> <p>3) 激増する輸入食品の安全性について 厚生省東京検疫所 中嶋食品監視専門官 (出席者 48名) 於 虎の門パストラル</p> <p>12. 第11号 会報の発行</p> <p>会 員 数 80社</p> <p>理 事 者</p> <p>日本水産(株) 冠 洋一 (株)ニチレイ 遠藤 英則 (代表理事)</p> <p>日魯漁業(株) 鈴木 順晴 大洋漁業(株) 小池 莊一郎</p> <p>味の素(株) 小杉 直輝 日本デルマール食品(株) 田口 英樹</p> <p>雪印乳業(株) 尾崎 顕一 (株)フレック関東 田中 博</p> <p>サンバーク(株) 齊藤 昭 明治乳業(株) 望月 正人</p> <p>(財)日本冷凍食品検査協会 熊谷 義光</p> <p>顧問</p> <p>(財)日本冷凍食品検査協会 光石 昭</p> <p>味の素冷凍食品(株)四国 藤木 正一</p> <p>日本水産(株)清水工場長 有馬 和幸</p> <p>大洋漁業(株) 小泉 栄一郎</p>

	食品業界関連	社会関連の動き
1月	E D B 燻蒸でマンゴーへの残留を認めないと通知 (衛食第15号、衛化第5号)	1月 台湾、李登輝総統就任
2月	輸入ナチュラルチーズのリステリア菌汚染防止について通知 (環乳第3号)	1月 HS (国際統一商品分類システム) に基づく関税率表に全面改正
2月	厚生省、食品添加物1日摂取量実態調査報告	2月 米カルガリー冬季五輪開幕
3月	米国、台湾産豚肉から合成抗菌剤スルファジミジン検出	3月 青函トンネル開通
3月	タイ産鶏肉から有機塩素系農薬ディルドリン検出	3月 東芝機械、ココム裁判で有罪判決
3月	有害物質の残留する食肉の流通防止について通知 (衛乳第23号)	4月 アフガン和平協定、ソ連軍全面撤退へ
4月	厚生省食品保健課に新開発食品保健対策室を設置	4月 瀬戸大橋開通
6月	食品衛生調査会、『食品添加物表示基準の改正について』答申書	6月 リクルート・スキャンダル
7月	食品添加物表示に関する全面改正 (食添全面表示) (省令第46号、第47号)	6月 日米、牛肉・オレンジ協定成立
9月	E D B 燻蒸で柑橘類、レイシへの残留を認めないと通知 (衛食第15号、衛化第5号)	8月 日中平和友好条約締結10周年
10月	食品衛生法施行40周年	8月 イラン・イラク停戦発効
11月	健康食品の摂取量及び摂取方法の表示指針について通知 (衛新第20号)	9月 ソウル・オリンピック開幕
11月	弁当、そうざい営業者に対する監視指導の強化について通知 (環食第234号)	11月 利根川 進、ノーベル医学生理学賞受賞
	○ 放射能汚染食品7品目34件	○ 東京ドーム開業
	○ フロンガス規制法施行	
	○ 消費者保護基本法制定20周年	

年次	冷凍食品技術研究会
1989 (元年)	<p>2.7~9 「食品冷凍講習会」開催 品川区立勤労福祉会館(受講者 54名)</p> <p>2.9 「シンポジウム」開催 品川区立勤労福祉会館(受講者 73名)</p> <p>1) 品質監理特に異物発見 望月 正人(明治乳業)</p> <p>2) 製造現場の小改善について 権守 進兵(味の素冷凍食品)</p> <p>3) 製造現場における品質管理 小池 荘一郎(大洋漁業)</p> <p>4) 食品工場の計装システムの一例 千葉 充幸(ニチレイ)</p> <p>5) 食品添加物表示についてのQ&A 山口 恒(冷食協会)</p> <p>総合討論 司会 小杉 直輝(味の素)</p> <p>2.10 中日冷凍及び冷蔵食品加工技術シンポジウム 於 ㈱ニチレイ本社 中華民国側講演者 4名 日本側講演者 2名</p> <p>2.23 「会報部会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>3.31 「第三回理事会」開催 於 豊国ビル 会議室 63年度事業遂行並びに元年度事業計画について検討</p> <p>3. 第12号 会報の発行</p> <p>4.28 「第一回理事会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>6.22 工場見学会の開催 サッポロビール(株)千葉工場 (株)ニチレイ船橋食品工場</p> <p>6.22 定例総会の開催 千葉県鴨川 鴨川グランドホテル (出席者 38名)</p> <p>6. 第13号 会報の発行</p> <p>9.4 「事業・会報部会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>9.25 「事業部会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>9. 第14号 会報発行</p> <p>10.6 「第二回理事会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>11.24 「会報部会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>12.8 「講演会ならびに懇親会」開催</p> <p>1) 食品添加物の新表示方式について (社)日本食品添加物協会 城 専務理事</p> <p>2) 最近の食品衛生状況について 東京都衛生局獣医衛生課 三好主査 (出席者 48名) 於 東京郵便貯金会館</p> <p>12. 第15号 会報の発行</p> <p>会 員 数 80社</p> <p>理 事 者</p> <p>日本水産(株) 冠 洋一 (株)ニチレイ 遠藤 英則</p> <p>日魯漁業(株) 鈴木 順晴 大洋漁業(株) 小池 荘一郎</p> <p>味の素(株) 小杉 直輝(代表理事) 明治乳業(株) 望月 正人</p> <p>雪印乳業(株) 尾崎 顕一 (株)フレック関東 小糸 真</p> <p>(財)日本冷凍食品検査協会 熊谷 義光</p> <p>顕 問</p> <p>(財)日本冷凍食品検査協会 光石 昭</p> <p>味の素冷凍食品(株)四国 藤木 正一</p> <p>日本水産(株)清水工場長 有馬 和幸</p> <p>大洋漁業(株) 小泉栄一郎</p>

食品業界関連	社会関連の動き
1月 製造年月日表示に『89.1.8』等許可 (衛食第6号、衛乳第3号、衛化第3号)	1月 昭和天皇死去、年号『平成』
3月 機能性食品懇談会、今後の機能性食品のあり方について中間報告	1月 米ブッシュ大統領就任
5月 広島県に検疫所新設(省令第25号)	2月 昭和天皇大喪の礼
9月 健康食品の表示等に関する指針を通知 (衛新第53号、衛新第54号)	3月 アジア太平洋博覧会(福岡)開催
11月 食品添加物表示基準改正、天然添加物についても原則表示(省令第48号)	3月 横浜博覧会開催
11月 厚生省、『化学的合成品以外の食品添加物リスト(第1版)』公表	4月 消費税スタート
12月 輸入塩蔵野菜関連食品の衛生確保 通知	5月 リクルート事件で藤波元官房長官ら起訴
○ 東京都消費生活条例(略称)改正	6月 国際花と緑の博覧会(大阪)開催
○ 米国でロコ貝の食中毒、日本でも有症苦情各地で発生	6月 宇野内閣 発足
	6月 中国・北京、天安門事件
	8月 海部内閣 発足
	9月 企業の環境保全行動指針としてCERESが『バルディーズ原則』発表
	11月 ベルリンの壁、事実上消滅
	11月 第1回APEC(アジア・太平洋経済協力関係会議)キャンベラで開催
	12月 米ブッシュ大統領、ソ連ゴルバチョフ議長、マルタで会談、冷戦の終結を宣言
	12月 ルーマニア流血革命

年次	冷凍食品技術研究会
1990 (2年)	<p>2.1~3 「食品冷凍講習会」開催 総評会館(受講者 54名)</p> <p>2.3 「シンポジウム」開催 総評会館(受講者 112名)</p> <p>1) 冷凍めん類の製造上の問題点 横塚 章治(日清製粉)</p> <p>2) 冷凍米飯の製造上の問題点 藤井 孝道(ニチレイ)</p> <p>3) チルド食品の保存性 小嶋 秩夫(東京水産大)</p> <p>4) 食品工場の品質管理上の悩み 相田 弘一(日本水産)</p> <p>5) 食品のクリーム現状 三好 和彦(東京都衛生局)</p> <p>総合討論 司会 遠藤 英則(ニチレイ)</p> <p>2.6 「第三回理事会」開催 於 豊国ビル 会議室</p> <p>2.19~24 海外視察(台湾冷凍食品産業考察旅行調査団)</p> <p>3.6 「事業部会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>4.10 「第一回理事会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>5. 第16号 会報の発行</p> <p>6.8 工場見学会の開催 雪印乳業(株)チーズ研究所 雪印ベルフォーレワイナリー(株)</p> <p>6.8 定例総会の開催 山梨県石和 石和ホテル (出席者 37名)</p> <p>7.18 「事業・会報部会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>9. 第17号 会報の発行</p> <p>11.20 「第二回理事会」開催 於 大門精養軒</p> <p>12.10 「講演会ならびに懇親会」開催</p> <p>1) フライ食品の老化とその防止について 太田静行農学博士</p> <p>2) 食品の新製品開発と包装資材について 昭和アルミ(株) 岡田箔事業部長</p> <p>3) 日米の食品衛生の現況 厚生省東京検疫所 中嶋食品衛生専門官 (出席者 42名) 於 虎の門パストラル</p> <p>12.20 「事業部会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>12. 第18号 会報の発行</p> <p>会 員 数 81社</p> <p>理 事 者</p> <p>日本水産(株) 有馬 和幸 協ニチレイ 遠藤 英則</p> <p>協ニチロ 角田 靖雄 大洋漁業(株) 小池 荘一郎</p> <p>味の素(株) 小杉 直輝(代表理事) 明治乳業(株) 望月 正人</p> <p>雪印乳業(株) 尾崎 顕一 協フレック関東 小糸 真</p> <p>(財)日本冷凍食品検査協会 熊谷 義光</p> <p>顧 問</p> <p>(財)日本冷凍食品検査協会 光石 昭</p> <p>味の素冷凍食品(株)四国 藤木 正一</p> <p>大洋漁業(株) 小泉栄一郎</p>

食品業界関連		社会関連の動き
4月	東京都輸入食品監視班 発足	3月 ゴルバチョフ、ソ連初代大統領に就任
5月	フランス政府、日本産卵付き冷凍ホタテガイ全面禁止措置	4月 大阪で国際花と緑の博覧会(花博)開幕
7月	指定検査機関の精度管理について通知	6月 ベルー大統領選で日系のアルベルト・フジモリが勝利
9月	ティラミスのサルモネラ・エンテリティディス食中毒、患者679名(広島)	6月 ロシア共和国が主権宣言
12月	輸入給餌養殖エビについて抗生物質等、輸入検査強化を通知(衛乳第99号)	8月 イラク、クエート侵攻、湾岸戦争
	○ 厚生省、飲料等の口金が本体から離れないステイオンタブ方式の採用を業界に要請	9月 ソ連・韓国、国交樹立
		10月 東西ドイツ統一
		10月 ゴルバチョフにノーベル平和賞
		11月 サッチャー英首相が辞意表明、後任にメジャー蔵相
		12月 日本人初の宇宙飛行士、東京放送・秋山豊寛記者が帰還

年次	冷凍食品技術研究会																				
1991 (3年)	<p>2.7 「第三回理事会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>2.13~15 「食品冷凍講習会」開催 全通会館(受講者 36名)</p> <p>2.15 「シンポジウム」開催 全通会館(受講者 75名)</p> <p>1) 最近の冷凍食品技術の動向 遠藤 英則(ニチレイ)</p> <p>2) 油燐済食品の製造技術 尾崎 顕一(雪印乳業)</p> <p>3) 電子レンジ用冷凍食品の製造技術 松田 力(日本水産)</p> <p>4) ボイリングパック冷凍食品の開発 角田 靖男(ニチロ)</p> <p>と製造技術並びに販売動向</p> <p>総合討論 司会 小杉 直輝(味の素)</p> <p>4.10 「第一回理事会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>5.24 工場見学会の開催 アンゼンフーズ(株)本社工場 静岡県水産試験場 カク長渡仲商店</p> <p>5.24 定例総会の開催 静岡県焼津 ホテル三景苑 (出席者 47名)</p> <p>5.8 「第二回理事会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>5. 第19号 会報の発行</p> <p>6.6 セミナーの開催 (出席者 34名) 於 きゅりあん</p> <p>8.9 「会報部会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>9. 第20号 会報の発行</p> <p>11.20 「事業部会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>12.5 「講演会」開催</p> <p>1) 新しい自主衛生管理方式HACCPについて 川端 俊治(農学博士)</p> <p>2) 米国の行政とHACCPについて 厚生省東京検疫所 中嶋食品衛生専門官</p> <p>3) FDAのHACCP説明会に参加して (財)日本冷凍食品検査協会 齊藤研究部長 (出席者 52名) 於 きゅりあん</p> <p>会 員 数 82社</p> <p>理 事 者</p> <table border="0"> <tr> <td>日本水産(株)</td> <td>有馬 和幸</td> <td>(株)ニチレイ</td> <td>遠藤 英則</td> </tr> <tr> <td>(株)ニチロ</td> <td>四宮 正英</td> <td>大洋漁業(株)</td> <td>小池 荘一郎</td> </tr> <tr> <td>味の素冷凍食品(株)</td> <td>藤木 正一</td> <td>明治乳業(株)</td> <td>望月 正人</td> </tr> <tr> <td>雪印乳業(株)</td> <td>鍋田 幸蔵(代表理事)</td> <td>(株)フレック関東</td> <td>小糸 真</td> </tr> <tr> <td>(株)東京福吉</td> <td>杉田 宏</td> <td>宝幸水産(株)</td> <td>古東 宣勝</td> </tr> </table> <p>(財)日本冷凍食品検査協会 熊谷 義光</p> <p>顧 問</p> <p>(財)日本冷凍食品検査協会 光石 昭</p> <p>大洋漁業(株) 小泉栄一郎</p>	日本水産(株)	有馬 和幸	(株)ニチレイ	遠藤 英則	(株)ニチロ	四宮 正英	大洋漁業(株)	小池 荘一郎	味の素冷凍食品(株)	藤木 正一	明治乳業(株)	望月 正人	雪印乳業(株)	鍋田 幸蔵(代表理事)	(株)フレック関東	小糸 真	(株)東京福吉	杉田 宏	宝幸水産(株)	古東 宣勝
日本水産(株)	有馬 和幸	(株)ニチレイ	遠藤 英則																		
(株)ニチロ	四宮 正英	大洋漁業(株)	小池 荘一郎																		
味の素冷凍食品(株)	藤木 正一	明治乳業(株)	望月 正人																		
雪印乳業(株)	鍋田 幸蔵(代表理事)	(株)フレック関東	小糸 真																		
(株)東京福吉	杉田 宏	宝幸水産(株)	古東 宣勝																		

食品業界関連	社会関連の動き
4月 『生めん類の衛生規範等について』通知	1月 多国籍軍、イラク攻撃を開始
6月 鮮魚の鮮度保持剤について通知	3月 ユニバーシアード冬季大会開催
8月 特定保健用食品(旧、機能的食品)の標示許可について通知	4月 東京都知事選、鈴木俊一が磯村尚徳を破り当選
8~9 関東のコレラ騒動で国産または輸入アオヤギが疑われる	4月 自衛隊掃海艇ペルシヤ湾派遣
10月 輸入水産物のコレラ対策強化を通知	4月 東京都庁、新庁舎(新宿)へ移転
11月 米国産鶏肉、合成抗菌剤ナイカルバジン検出で検査強化を通知(衛乳第115号)	4月 牛肉、オレンジ果汁自由化
12月 組換えDNA技術応用食品等に関する通知(衛食第153号、衛食第153-2号)	8月 ソ連保守派クーデター、3日後に失敗。バルト3国独立へ
○ 米FDA、対米輸出水産物の検査強化、対米輸出業者にHACCP管理を要求	9月 雲仙・普賢岳、大規模な火砕流が発生
○ ドイツ、日本産海藻類に含まれるヨード分が甲状腺機能障害を起こすと問題化	9月 天皇・皇后、アセアン3カ国訪問
○ 真空調理食品人気、一方に微生物危害に対する懸念	11月 宮沢内閣 発足
○ ロコ貝による有症苦情各地で発生	12月 ソ連邦消滅宣言(ソ連邦解体)
○ 昭和電工、米国でL-トリプトファン健康障害について訴訟	12月 ゴルバチョフ大統領、辞任表明

年次	冷凍食品技術研究会
1992 (4年)	<p>1. 第21号 会報の発行</p> <p>2. 7 「第三回理事会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>2.13~15 「食品冷凍講習会」開催 きりあん (受講者 51名)</p> <p>4.17 「第一回理事会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>6.12 工場見学会の開催 堀川蒲鉾工業㈱ 東港工場 木村食品工業㈱ 本社工場</p> <p>6.12 定例総会の開催 新潟県弥彦 ホテルみのや (出席者 54名)</p> <p>8. 第22号 会報の発行</p> <p>10.14 「第二回理事会」開催 於 鉄鋼会館</p> <p>10.14 「会報部会」開催 於 鉄鋼会館</p> <p>10.14 「講演会及び懇親会」開催</p> <p>1) 流通業界からみた冷凍食品の今後 ㈱西友 生産管理部 松本 明氏</p> <p>2) 品質管理に対する問題点 日本水産㈱ 有馬品質管理部長</p> <p>3) 冷凍食品における海外戦略 中華民国冷凍食品発展協会 林 会長 (出席者 50名) 於 鉄鋼会館</p> <p>11.20 「会報部会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>会 員 数 82社</p> <p>理 事 者</p> <p>日本水産㈱ 有馬 和幸 ㈱ニチレイ 野口 正見 ㈱ニチロ 鈴木 順晴 大洋漁業㈱ 須藤 文敏 味の素冷凍食品㈱ 藤木 正一 明治乳業㈱ 山口 幸雄 雪印乳業㈱ 鍋田 幸蔵(代表理事) ㈱フレック関東 小糸 真 ㈱東京福吉 杉田 宏 宝幸水産㈱ 古東 宣勝 (財)日本冷凍食品検査協会 熊谷 義光</p> <p>願 問</p> <p>(財)日本冷凍食品検査協会 光石 昭 大洋漁業㈱ 小泉栄一郎</p>

食品業界関連	社会関連の動き
1月 米太平洋岸産カニ、2枚貝のドーモイ酸汚染問題	1月 米ブッシュ大統領来日、日米東京宣言発表
1月 インドネシア産給餌養殖エビにテトラサイクリン系抗生物質検出され全ロット検査を通知	2月 アルベールビル冬季五輪
2月 EC委員会、日本産卵付き冷凍ホタテガイ全面禁止措置	2月 東京佐川急便・渡辺社長ら逮捕、政界の疑惑拡大
4月 食鳥検査制度発足	2月 EC加盟国、欧州連合条約(マーストリヒト条約)に調印
4月 輸入畜水産食品のモニタリング検査通知(衛乳第74号)	3月 暴力団新法施行
4月 粗放養殖も含め、輸入養食エビ全般について輸入検査強化を通知	5月 沖縄復帰20年
4月 広島県産カキから麻痺性貝毒検出、販売等を禁止	5月 日本新党結成
7月 卵及びその加工品のサルモネラ・エンデリティディス衛生対策について通知(衛乳第128号)	6月 PKO協力法成立。野党、牛歩戦術で抵抗
10月 残留農薬基準値第1次改正(93年5月1日実施)(告示第239号、衛化第74号)	7月 バルセロナ五輪 開幕
10月 食品輸入届出窓口として船橋、川崎、神戸、境を新設(衛検第272号)	8月 中国・韓国、国交樹立
12月 輸入食品衛生管理者制度の実施について通知(衛食第163号、衛乳第217号、衛化第94号)	9月 毛利衛、スペースシャトル「エンデバー」で宇宙飛行、宇宙実験
○ 有機スズ化合物TBT(トリブチルスズ)、TPT(トリフェニルスズ)による魚介類汚染問題化	9月 自衛隊部隊、カンボジアPKO派遣
	9月 日中国交正常化20年
	10月 天皇・皇后、中国訪問

年次	冷凍食品技術研究会																								
1993 (5年)	<p>1. 第23号 会報の発行 1.27~29 「食品冷凍講習会」開催 きりあん (受講者 50名)</p> <p>3. 第24号 会報の発行</p> <p>5.21 「第一回理事会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>5.21 「会報部会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>6.21 「第二回理事会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>7.2 工場見学会の開催 (株)ティエフケー(国際線機内食工場) 厚生省成田空港検疫所</p> <p>7.2 定例総会の開催 茨城県潮来 潮来ホテル (出席者 48名)</p> <p>9. 第25号 会報の発行</p> <p>10.7 「会報部会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>11.2 「第三回理事会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>11.2 「会報部会」開催 於 検査協会 会議室</p> <p>11.22 「会報部会」開催 於 ニチロ 会議室</p> <p>12.3 「十周年記念講演並びに懇親会」開催</p> <p>1) 「冷凍食品の現状と問題点」 (社)日本冷凍食品検査協会 専務理事 山田 嘉治</p> <p>2) 「日本冷凍食品協会の実験調査事業を振り返って(特に日付問題等の関連)」 東京水産大学食品生産学科 教授 小嶋 秩夫</p> <p>会 員 数 82社</p> <p>理 事 者</p> <table border="0"> <tr> <td>日本水産(株)</td> <td>有馬 和幸</td> <td>(株)ニチレイ</td> <td>野口 正見</td> </tr> <tr> <td>(株)ニチロ</td> <td>鈴木 順晴</td> <td>マルハ(株)</td> <td>中島 守</td> </tr> <tr> <td>味の素冷凍食品(株)</td> <td>藤木 正一</td> <td>明治乳業(株)</td> <td>岩重 敏美</td> </tr> <tr> <td>雪印乳業(株)</td> <td>鍋田 幸蔵(代表理事)</td> <td>(株)フレックス関東</td> <td>小糸 真</td> </tr> <tr> <td>ライフフーズ(株)</td> <td>小泉栄一郎</td> <td>宝幸水産(株)</td> <td>古東 宣勝</td> </tr> <tr> <td>(財)日本冷凍食品検査協会</td> <td>熊谷 義光</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	日本水産(株)	有馬 和幸	(株)ニチレイ	野口 正見	(株)ニチロ	鈴木 順晴	マルハ(株)	中島 守	味の素冷凍食品(株)	藤木 正一	明治乳業(株)	岩重 敏美	雪印乳業(株)	鍋田 幸蔵(代表理事)	(株)フレックス関東	小糸 真	ライフフーズ(株)	小泉栄一郎	宝幸水産(株)	古東 宣勝	(財)日本冷凍食品検査協会	熊谷 義光		
日本水産(株)	有馬 和幸	(株)ニチレイ	野口 正見																						
(株)ニチロ	鈴木 順晴	マルハ(株)	中島 守																						
味の素冷凍食品(株)	藤木 正一	明治乳業(株)	岩重 敏美																						
雪印乳業(株)	鍋田 幸蔵(代表理事)	(株)フレックス関東	小糸 真																						
ライフフーズ(株)	小泉栄一郎	宝幸水産(株)	古東 宣勝																						
(財)日本冷凍食品検査協会	熊谷 義光																								

食品業界関連	社会関連の動き
2月 米国のファーストフード・チェーンにおけるハンバーグ病原大腸菌食中毒事件	1月 欧州共同体(EC)統合市場発足
2月 ナシフグを食用フグリストから除外(衛乳第23号)	1月 米、クリントン大統領就任
3月 残留農薬基準値第2次改正(93年9月1日実施)(告示第68号、衛化第22号)	2月 アルペンスキー世界選手権盛岡・磐石大会開催
3月 食肉製品の成分規格、保存基準改正(衛乳第54号、55号)	3月 東京地検、金丸・前自民党副総裁を逮捕、起訴
7月 対EC輸出水産食品取扱い施設認定について通知(衛乳第161号)	5月 サッカーJリーグ開幕
8月 シュレッドチーズのリステリア汚染に関する衛生管理指針を通知(衛乳第169号)	6月 皇太子御成婚
8月 液卵の製造施設等の衛生指導要領(サルモネラ対策)通知(衛食第116号、衛乳第190号)	7月 自民党、総選挙で過半数割る
9月 残留農薬基準値第3次改正(94年4月1日実施)(告示第200号、衛化第76号)	8月 円最高値、1ドル104円台を記録
10月 有機農産物等の青果物特別表示ガイドラインについて通知(食流第3889号)	8月 細川内閣発足、自民党38年ぶりに政権を下りる
11月 「特定商品の販売に係る計量に関する政令」の施行	9月 バレスチナ暫定自治承認
12月 水道法に基づく改正水質基準値実施	9月 ロシア、モスクワ騒乱、議会攻撃
	10月 天皇・皇后、欧州訪問
	10月 ロシア・エリツィン大統領来日
	10月 稲作の作況指数75%
	11月 APEC閣僚会議と非公式首脳会議、シアトルで開催
	11月 凶作に伴う輸入米の第一陣タイ国より入荷

冷凍食品技術研究会

規 約

制定 昭和58年6月
改正 平成 3年5月

1. 名 称 冷凍食品技術研究会という。
2. 目的と事業 冷凍食品及びその他の低温食品の製造技術の向上と製品の品質及び衛生水準の向上を図り、それらの業界の発展に寄与することを目的として次の事業を行う。
 - (1) 冷凍食品の生産，製造，品質管理，流通及び消費面での共通な技術的問題の研究。
 - (2) 各種研究会，講演会並びに講習会の開催。
 - (3) 国内及び海外の技術情報の収集。
 - (4) 国内及び海外の冷食産業の視察と研修。
 - (5) 会員相互の親睦を図る。
 - (6) 機関誌の発行。
 - (7) その他の低温食品関連の技術に関する必要な事項。
3. 事 務 局 財団法人 日本冷凍食品検査協会 冷凍食品検査部におく。
4. 会 員 正 会 員 冷凍食品生産企業及びこれに準ずるもの。
賛助会員 趣旨に賛同した関連事業体。
5. 役 員 理事若干名
理事は総会にて選出する。
役員は任期は1年とする。
代表理事は理事会において選出し、総会の承認を得て定める。
顧問をおくことができる。
6. 会 費 正 会 員 1ヶ月 3,000円 (入会金 5,000円)
賛助会員 1ヶ月 3,000円 (入会金 5,000円)
7. 会 計 本会の経費は、会費その他の収入をもって充当し、会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日を以って終わる。
8. 入会・脱会 入会は理事会の承認を得るものとする。
脱会は脱会届けの提出をもって確認する。
9. そ の 他 (1) 本会に功労のあった者で、理事会で必要と認めた個人を名誉会員とすることができる。
(2) この規約に定めのない事項については理事会で審議して定める。

冷凍食品技術研究会役員及び委員名簿

1. 役 員

理 事

味の素冷凍食品 株式会社	社長	藤木 正一
大洋漁業 株式会社	低温食品事業部 低温食品課長	中島 守
日本水産 株式会社	品質管理グループ部長	有馬 和幸
(財)日本冷凍食品検査協会	理事長	熊谷 義光
株式会社 ニチレイ	取締役生産部長	野口 正見
株式会社 ニチロ	品質管理部長	鈴木 順晴
宝幸水産 株式会社	食品総合研究所長	古東 宣勝
明治乳業 株式会社	加工食品販売部 商品開発グループ課長	岩重 敏美
ライフフーズ株式会社	技術品質管理部長	小泉栄一郎
雪印乳業 株式会社	冷凍食品生産部長	鍋田 幸蔵

監 事

株式会社 フレック関東	製造部長	小糸 真
-------------	------	------

2. 編集委員

委員長 小泉栄一郎、 委員 星野良伍、有田寛二

(1993.12.1)

平成5年11月10日現在

地区	研究会 員No.	工場認 定No.	会 員 名	〒 住 所	電話番号	研究会担当者氏名
福島県②	1	924	株式会社 桜井商店	971 いわき市小名浜字鳥居北 93	0246-92-2806	櫻井 照夫 (代表取締役)
	2	10	株式会社ニチレイ 小名浜工場	971 いわき市小名浜元分 15	0246-54-2101	堀江 利貞 (工場長)
群馬県⑤	3	107	新進冷凍 株式会社	371 前橋市飯土井町 807-1	0272-68-0522	鷲 高 荘介 (代表取締役)
	4	368	味の素冷凍食品株式会社	370 邑楽郡大泉町大字吉田 1222	0276-62-5181	内 尾 良 輔 (取締役所長)
	5	1,190	群馬畜産加工販売農協同組合連合会 高崎ハム	370 高崎市末広町 124	0273-61-8601	木 暮 義 憲 (専務)
	6	1,428	(株)昭和食品 団地第2工場	379 前橋市上大島字向川辺 182-67	0272-61-4560	大 塚 正 明 (品質管理課)
	8	654	雪印乳業 株式会社 群馬工場	370 邑楽郡大泉町大字吉田 1201	0276-63-4151	杉 沢 良 之 助 (工場長)
	9	1,223	株式会社 武蔵野フレック	321 芳賀郡二宮町大字久下田 310-1	02857-4-1171	伊 勢 谷 一 男 (工場長)
	10	745	ツタバ食品 株式会社 研究室	320 宇都宮市下栗町 1563	0286-35-0500	齊 藤 貞 大 (開発研究係長)
	41	-	株式会社 大洋シーフーズ	321 宇都宮市清原工業団地8-1	0286-67-0801	川 崎 重 幸 (部長)
茨城県⑧	11	81	株式会社 浜島	311 東茨城郡大洗町磯浜町 6943	0292-67-3128	海 野 宗 善 (取締役社長)
	12	428	株式会社 大水	312 勝田市馬渡西谷津 3839-1	0292-73-6363	川 又 保 (専務取締役)
	13	430	サンバーク株式会社 茨城工場	306 猿島郡境町大字西泉田字海道向 1436-1	02808-7-2531	早 川 清 (工場長)
	14	781	明治乳業 株式会社 茨城工場	311 東茨城郡美野里町堅倉 1465	02994-8-1121	鈴 木 幹 盛 (工場長)
	16	973	株式会社 丸竹商店	311 那珂湊市沢メキ 1110-61	02926-3-6111	竹 永 和 弘 (専務)
	17	1,253	アルプスター (株) 本社工場	306 猿島郡五霞村大字元栗橋 403-2	02808-4-1221	岩 崎 知 之 (開発部長)
	18	1,194	株式会社 ゴトウ食品	311 鹿島郡鉾田町大字青柳 792	0291-6-2111	後 藤 信 一 (代表取締役)
	20	1,025	茨城冷凍食品販売 株式会社	310 水戸市棚町 2-7-1	0292-24-3930	小 野 瀬 勝 司 (代表取締役)

地区	研究会 員No.	工場認 定No.	会 員 名	〒 住 所	電話番号	研究会担当者氏名
東京都⑭	27	381	株式会社 エフエフシー	183 府中市西府中 3-37-5	0423-66-7210	三 浦 深 使 (取締役)
	30	65	有限会社 マツオ商店	162 新宿区筑土八幡町 11	03-3269-5548	堀 井 秀 一 (常務取締役)
	31	329	日本水産(株)八王子総合工場	192 八王子市北野町 559-6	0426-42-8111	山 田 昌 宏 (工場長)
	34	946	株式会社 ニッター 立川工場	190 立川市一番町4-50-1	0425-31-1011	前 野 英 樹 (工場長)
	35	993	第一屋製パン (株) 本社工場	144 大田区東六郷 2-18-2	03-3738-0135	星 野 真 一 (工場長)
	36	1,003	ホーユーフーズ(株) 本社工場	174 板橋区志村 1-34-9	03-3965-0985	小 峰 英 男 (代表取締役)
	38	1,269	株式会社 大龍 本社工場	152 調布市飛田給 1-34-1	0424-84-4811	小 田 憲 吾 (課長)
	40	1,210	株式会社 日食サービス	182 調布市上石原 3-59-30	0424-85-8672	柿 崎 正 勝 (代表取締役)
	42	-	株式会社 ニチレイ 食品技術部	104 中央区築地6-19-20 ニチレイ東銀座ビル	03-3248-2135	野 口 正 見 (取締役生産部長)
	43	-	株式会社 ニチロ 品質管理部	100 千代田区有楽町 1-12-1 新有楽町ビル8階	03-3240-6390	鈴 木 順 晴 (部長)
	44	-	マルハ 株式会社 低温食品事業部	100 千代田区大手町1-1-2	03-3216-0805	中 島 守 (課長)
	45	-	味の素 株式会社 冷凍食品部	104 中央区京橋 1-15-1	03-3272-1111	田 中 実 (副部長)
	46	-	雪印乳業 株式会社 冷凍食品生産部 技術課	160 新宿区本塩町 13番地	03-3226-2142	近 藤 智 (課長)
	47	-	明治乳業 株式会社 加工食品販売部 商品開発グループ	130 墨田区緑1-26-11 明治乳業西園ビル	03-3633-1106	岩 重 敏 美 (部長)
	48	-	日本製粉 株式会社 技術部	150 渋谷区千駄ヶ谷 5-27-5	03-3350-2423	田 崎 修 宏 (課長)
	49	-	日清製粉 (株) 冷食部	103 中央区日本橋小網町 19-12	03-3660-3297	小 野 昭 二 (課長)
	51	-	日本水産 株式会社 品質管理グループ	100 千代田区大手町2-6-2 日本ビル	03-3244-7135	有 馬 和 幸 (部長)
	賛助 80	-	(財) 日本冷凍食品検査協会	105 港区芝大門2-4-6 豊国ビル	03-3438-1411	熊 谷 義 光 (理事長)
	賛助 82	-	上野製菓 株式会社 営業部 東京販売課	103 中央区日本橋本町 2-5-5	03-3271-2421	重 松 研 介 (課長)
	賛助 83	60.1.24	神羊商事 株式会社	103 中央区日本橋小舟町11-8 中西ビル 3F	03-3661-4530	杉 山 隆 (代表取締役)
	賛助 85	60.8.26	旭東化学産業 株式会社 営業第二課	150 渋谷区神宮前 6-18-8 ニュー関口ビル	03-3409-4751	高 橋 克 志 (課長)
	賛助 86	60.9.30	不二製油 株式会社 食品研究所	598 大阪府泉佐野市住吉町 1番地	0724-63-1120	片 山 勲 (副室長)
	賛助 94	63.2.1	高橋工業 株式会社 東京支店	105 港区西新橋 3-23-5 御成門郵便ビル	03-3433-8791	大 野 文 男 (取締役支店長)
	賛助 97	2.4.20	ミヨシ油脂株式会社 食油本部 技術課	124 葛飾区堀切4-66-1	03-3603-1115	小 柳 津 和 雅 (主任研究員)
	賛助 99	3.8.15	株式会社 食品産業新聞 第四編集部	110 台東区池之端 2-1-3 9 DSビル	03-3824-9111	新 妻 哲 男 (部長)
	賛助 102	3.12.5	日本スタング株式会社	103 中央区日本橋茅場町3-5-3 鈴屋ビル 6F	03-3668-0731	藤 井 賢 治 (営業部長)
	賛助 104	4.11.16	ライフフーズ株式会社	104 中央区湊 3-5-10	03-5566-4681	小 泉 榮 一 郎 (品質管理部長)

地区	研究会 員No.	工場認 定No.	会 員 名	〒 住 所	電話番号	研究会担当者氏名
埼 玉 県	21	324	株式会社 フレックフーズ	355 -01 比企郡吉見町大字田甲16-10	0493-54-1221	菊地 敦 (取締役会長)
	23	30	日本ミート株式会社 川越工場	350 川越市菅間字石橋 32-2	0492-23-1125	菅田 浩一 (工場長)
	24	1,132	株式会社 フレック関東	343 越谷市大字南萩島 883-1	0489-74-1161	高藤 知美 (代表取締役)
	50	-	日本酸素 株式会社 食品ラボラトリー食品技術部	355 -01 比企郡吉見町大字田甲16-10	0489-74-1164	安藤 (部 長)
	賛助 81	-	共栄食販 株式会社	343 -01 北葛飾郡松伏町松伏4182	0489-91-3890	中川 孝則 (営業部長)
	89	674	株式会社 東急フーズ ミート事業部 狭山工場	350 -13 狭山市上広瀬591-6	042-3-8333	鈴木 康司 (副 長)
	91	1,377	ニッカ食品株式会社	344 春日部市豊野町 2-8-2	0487-37-5151	小笠原 哲 (工場長)
106	1,738	さいたまコープ・ コープフーズ 生産部	330 大宮市吉野町2-284-2	0486-67-4127	白土 正 (生産管理課長)	
⑧						
千 葉 県	54	1,081	デルマール食品 株式会社	273 船橋市高瀬町 62-5	0474-35-1234	倉地 公治 (工場次長)
	55	87	有限会社 三五郎商店	283 -01 山武郡九十九里町粟生 2306	0475-76-5566	中村 武浩 (管理部長)
	56	180	株式会社 東京福吉 浦安工場	272 -01 浦安市堀江 4-9-10	0473-51-4151	杉田 宏 (代表取締役)
	58	31	千葉畜産工業 株式会社	281 千葉市花見川区幕張町 5-417-7	043-271-6715	天津 進 (工場長)
	59	626	日東食品製造(株) 習志野工場	274 船橋市習志野 4-7-1	0474-77-3181	神谷 雄二 (工場長)
	60	909	大丸水産 株式会社	288 鏡子市愛宕町 3525	0479-22-0032	平野 恭男 (工場長)
	62	14	(株) ニチレイ 船橋食品工場	273 船橋市日の出 2-19-1	0474-31-6121	内藤 健彦 (工場長)
	64	948	株式会社 トータク 勝浦事業所	299 -52 勝浦市沢倉三田 645-11	04707-3-7201	佐々木 悟 (工場長)
	52	1,236	株式会社 ジェシーフーズ	141 都内品川区西五反田2-29-5 日幸五反田ビル	03-3490-5011	若狭 一幸 (部 長)
	105	1,847	(株) コメック 東京工場	261 千葉市美浜区新港 2 3 0	043-242-6728	山下 三郎 製造課
⑩						
新 潟 県	65	259	有限会社 ハトヤ食品	950 新潟市女池字西前沢 1885	0252-46-2391	加藤 洋子 (代表取締役)
	66	720	株式会社 たかの 千谷島工場	947 小千谷市大字千谷字小島 2837-1	02588-2-6500	栗原 良至 (専務取締役)
	103	1375	木村食品工業株式会社	959 新潟県西蒲原郡吉田町東栄町 14-33	0256-93-3241	松野 武夫 (生産部長)
⑪						
長 野 県	68	762	株式会社 コック・フーズ	387 更埴市屋代字松ヶ崎 1269	02627-2-3344	利根川 昇 (代表取締役)
	69	808	株式会社 シンコーフーズ	381 -11 長野市育木島町網島 750-3	0262-84-1636	前角 隆夫 (代表取締役)
⑫						

地区	研究会 員No.	工場認 定No.	会 員 名	〒 住 所	電話番号	研究会担当者氏名
山 梨 県	70	376	富士食品工業 株式会社 第二工場	405 山梨市下石森宮の前 1	05532-2-0842	岸本 清 (製造課長)
⑬						
神 奈 川 県	71	169	株式会社 ニチロ 久里浜工場	239 横須賀市久里浜 8-8-1	0468-35-3400	四宮 正英 (工場長)
	72	242	株式会社 キョウリツ	231 横浜市中区海岸通1-3	045-212-0328	宮川 弘 (取締役部長)
	73	38	宝幸水産 株式会社 大和工場	242 大和市上和田 1019-2	0462-67-1531	山田 誠之 (工場長)
	74	1,031	亜細亜食品 株式会社	235 横浜市磯子区杉田 4-16-6	045-773-0941	伴 吉郎 (製造開発課長)
	75	1,226	日本総合食品 株式会社	250 小田原市北ノ窪 303-2	0465-35-4147	中林 久四郎 (専務取締役)
	賛助 90	62. 5. 1	コーケン香料株式会社	244 横浜市戸塚区下倉田町573-1	045-861-1144	中島 義昭 (代表取締役)
⑭						
静 岡 県	77	967	アンゼンフーズ 株式会社	422 静岡市登呂 6-7-12	0542-83-0632	山形 洋 (専務取締役)
	賛助 95	63. 11. 12	大川食品工業 株式会社	410 沼津市小瀬助 400	0559-62-2362	松田 啓資 (専務取締役)
	賛助 99	3. 1. 14	東海穀粉株式会社	420 静岡市伝馬町24-15	0542-53-1181	岡本 功生 (新事業部部長)
⑮						
青 森 県	96	832	株式会社 ハチティ	039 -22 八戸市大字市川町字下場 45-44	0178-52-7131	山田 俊夫 (専務取締役)
⑯						
宮 城 県	37	1,354	明治ケンコーハム 株式会社 東北工場	989 柴田郡大河原町字甲子町 1-7	02245-3-2536	南雲 政勝 (課 長)
大 阪 府	賛助 84	60. 5. 8	東部商事 株式会社	544 大阪市中央区本町4-4-24 住友生命本町第二ビル 4F	06-241-0030	浜家 兵満 (専務取締役)
⑰						
熊 本 県	98	1,755	ユーユーフーズ株式会社	869 -11 菊池郡菊陽町大字曲手707	096-232-5200	酒見 欽爾 (工場長)
⑱						
				5. 11. 10 現在	82 会員	内正会員 68
				(1都 1府 14 県)		賛助会員 14
				(平成5年度) (No 106)		(1 会員)

〈編集委員〉

小泉(ライフ) 有田(雪印乳業)
星野(ニチロ) 原田(冷凍検査協会)

発行所

冷凍食品技術研究会
〒105 東京都港区芝大門2-4-6 豊国ビル
(財) 日本冷凍食品検査協会内
TEL 03-3438-1414